

# 「らいてうの家」開館の年に



完成した「らいてうの家」  
現地はもう深い雪です

# おぼろぐさりの会ニユース

二〇〇六年を迎え、新年のご挨拶を申し上げます。戦後六十年の昨年は、憲法に「自衛軍」を盛り込もうという「改正案」や「ジェンダーフリーバッシング」などの動きがよまる一方、平和を願う人びとの大きな連帯の輪が広がった年でもありました。

そして平塚らいてう生誕百二十年の今年、念願の「らいてうの家」がオープンします。らいてうは晩年、全国の女性たちへの新年の挨拶を欠かしませんでした。亡くなる年の一九七一年正月には「命とくらしを守る／みんなのたたかいの中から／平和な未来が生まれる／新しい太陽がのぼる」と書いた色紙を遺しています。

そのらいてうの「こころざし」を生かす場として「家」が誕生す

ることを、募金のよびかけに伝えてくださった方がたをはじめ支えてくださったみなさまに、深い感謝とともに喜びをもつてご報告いたします。

思えば二〇〇四年二月、「信州にらいてうの家を」と決意したときには「無謀」と危ぶむご意見も多く、自分の家さえ建てたことのないわたしにも成算はありませんでした。けれども、「フシギ」としかいようのない多くの人びととの出会いに恵まれて、今「家」は地元産の木を使って完成、雪につつまれた静かな山林で春の芽吹きを待っています。吹き抜ける天井に届く杉の大黒柱、「森」をイメージしたステンドグラスや『青鞥』の表紙を刻んだガラス戸、そして信州で生まれたペレットストーブと落葉松材の展示ケースや椅子・テーブルたち……。かつてらいてうが二人の子を育てながら夢見た「気持ちのいい自由な休息所」がここに実現します。五月二十八日のオープンセレモニーにはぜひお集まりください。地球上のすべての人びとが平和に生きられる世界になることを願いつつ。

(会長 米田佐代子)

# 二〇〇六年はらいてうの 「こころざし」をうけつぐ年

## 「家」完成記念の集い

二月十日はらいてうの百二十年目の誕生日、その節目を祝うとともに、できなかった「家」の報告会を兼ね、東京都内でささやかな集いをいたします。当日は映像などもごらんいただきながら、らいてうの「こころざし」をうけつぐ思いを語り合いたいと思います。参加ご希望の方は左記へお申し込みください。

日時 二月四日(土)午後二時より  
場所 主婦会館プラザエフ地下二階  
(JR四谷駅麹町口前)

会費 三千元

\*お申し込みは電話またはFAXで

〇三―三四〇―一六三八三へ

## 五月に現地セレモニー

多くの人びとの「協同」と「森のめぐみ」に支えられ「思ってもみなかった」力に導かれてできた「家」をみんなで祝

福してやっってください。五月二十八日(日)には、現地でオープンセレモニーをいたします。詳しいことは次号で。どうぞ木の香も新しい「家」にお集まりくださいますことを！

## 「らいてうの森」植樹

オープンと同時に、記念事業として昨 autumn に笹刈りをした森に植樹をしようと計画中です。ぜひご参加ください。

## 雪どけ後には庭づくり

「家」本体はできましたが、傾斜地の整地や周辺の間伐・笹刈り、歩行路へのチップ撒きなどの仕事が残っています。雪が消えたら手づくりで庭をこしらえませんか？

## 「家」の運営委員会を

「家」をどう使うか。開館日は？スタッフは？運営費は？交通は？と難問が山積ですが、らいてうの会と現地真田・上田のみなさん、さらに各地の方がたの知恵を集めて企画と運営をすすめる委員会をつくらうと思えます。ぜひご協力く

ださい。オープンまでに年間計画を「カレンダー」にしようと考えています。

## 真田町の支援に感謝

「家」の所在地真田町は、今年三月六日に上田市と合併します。町にはこれまでもお力添えをいただきましたが、今回は未設置だった町道の側溝工事を実施してくださいました。町立図書館からは新図書館建設に伴い、小林登美枝さんの蔵書を受け入れたいという意向も寄せられています。植樹予定地は真田町財産組合の山林です。町民のみなさんから総額二百万円にのぼるご寄付もいただきました。心からお礼申し上げます。

## ペレットストーブ設置

寒冷地に必需品の暖房も、「環境を守り森を育てよう」と長野県が開発した「信州型」ペレットストーブを、一台は農林中央金庫長野支店からの寄贈、もう一台は上伊那森林組合からの「無償貸与」で設置できることになりました。燃える火とともに長野県人の暖かい心も感じられる日を楽しみにしてください。

# 平塚らいてうと市川房枝

折井 美耶子

運動にはお金がかかり、第一次大戦時の好景気が去り、寄付も思うように集まらず、理事のわずかな俸給も不払いという状況だった。市川さんの渡米については喧嘩別れという説があり、らいてうの花柳病男子結婚制限問題、市川さんの治安警察法改正問題と意見の違いが原因とされることもあるが、名古屋新聞時代に市川さんが書いた男性の性的放縱を非難する署名記事もあり、また横浜埠頭までらいてうが見送りに行った写真も残っており、喧嘩別れとはいえない。

副委員長となり「新婦人協会時代の婦人会館の夢の実現である」と語った。一九七一年らいてうの逝去にあたって市川さんは葬儀委員となり弔辞を述べている。婦人会館のロビーにある二つの銅版は半世紀にわたるふたりの長い交友と、日本近現代女性史のなかでの活動の象徴である。ふたりは時に意見の相違はあっても互いに支えあい、平和と協同、女性の解放に尽くした日本の女性運動の中核ともいえる存在であった。(副会長)

## ご寄付ありがとうございました

前号で「十二月中の支払いに」とせっぱつまった寄付のお願いをいたしました。ご心配くださったみなさまから続々ご寄付があり、総額四千万円を突破、また個人的に一時借入金をご用立てくださるといってお申し出もあって、当面建築関係の支払いを何とか確保することができました。ほんとうにありがとうございました。また予定していた家具類の支払いは繰り延べになり、ほっとしています。けれども、これらはオープンまでには支払わねばなりません。最終的には借入金の返済計画も含めて五千万円の目標にはもう八百万円ほど必要です。引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ふたりの最初の出会いは一九一八年夏、市川さんが名古屋新聞記者を辞めて上京し、四谷の山田嘉吉塾に英語を習いに行った時だった。市川さんはらいてうの印象を「静かな美しい人」と自伝に記している。らいてうは名古屋新聞が開催した「夏期婦人講習会」のあと、市川さんの案内で中京地方の繊維工場を見学したが、この同行で市川さんを信頼し、新しい運動の計画を相談した。市川さんは「よろこんで協力します」と答え、これが新婦人協会の始点となった。

新婦人協会の活動は請願運動、機関誌『女性同盟』の発行、支部の結成、講演会や研究会の開催などで超多忙。なかでも国会請願運動は昼夜を問わずといったおもむきで、着物も下駄も磨り減るほどの忙しさであった。「平塚氏は私がびっくりするほど積極的によく働き」と市川さんも書いているが、あまりの多忙でふたりとも病気になるってしまう。そのうえ

戦後、ふたりは「平和」をキーワードにして再び共同行動を行うようになる。新日本婦人同盟（日本婦人有権者同盟の前身）の結成総会にらいてうはメッセージを送り、また市川さんの公職追放取消申請書をGHQあてに出している。一九五〇年六月、らいてうらが「非武装国日本女性の講和問題についての希望要項」をダレス特使に手渡すについては、市川さんと婦選会館にお世話になっている。一九六二年の婦選会館改築にらいてうは

日本女子大でらいてうと同級生

大河内 美祿さん  
おこうち みね



昨年夏、大河内昭子さんから「らいてうの会」にお電話をいただいたのがご縁でお会いすることになり、「姑（はは）美祿は日本女子大でらいてうさんと同級でした」というお話をうかがった。

大河内美祿さんは旧姓を國中（くになか）といい、和歌山市出身で明治十八年四月生まれ。明治十九年二月生まれのらいてうと同学年だった。女子大ではおたがいに「おはるさん」「おみねさん」と呼びあう親しい仲だったという。自伝には、お茶の水高女時代のらいてうが「ハムちゃん」と呼ばれていたことは書かれているが、女子大時代にどんなふうと呼ばれていたかはあまり出てこない。美祿さんの記憶は当時のらいてうを知るうえでも貴重な証言である。

二人の友情には、もしかすると美祿さんが和歌山出身だったこともかかわっているかもしれない。らいてうの父定二郎

の郷里も和歌山で、姉の孝が平塚家の婿として迎えた夫米次郎（旧姓山中）も同郷だった。大河内家に嫁いでからは、らいてうと会うことはなかったが、戦後も

らいてうの写真が新聞に載ったのを見て「おはるさんもお年を召したのね」となつかしんでおられた。紫の訪問着がよく似合い、らいてうと同じように、若いときも老いてからも「きれいなひと」という形容詞がびつたりだったという。昭子さんは「それはそれは大らかなひと」という思い出を今も大切にしている。ご子息の靖久氏（昭子さんのご夫君）は通信省出身で、同省の大先輩平塚米次郎氏と一度交遊があったというから、これも浅からぬ縁といえるだろう。

昭子さんは建設中の「らいてうの家」を二回も訪問され、十一月のある日、水引をかけた熨斗袋をお持ちになった。「うれしい御手伝い」と表書きされたそれは「母みね 夫靖久 昭子」と三人のお名前が記されていた。美祿さんは昭和三十四年に急逝され、靖久氏も今は亡き人であるが、昭子さんの心のなかではいつも三人ごいっしょなのだと感じた。そ

のお気持ちを「家」に生かしたいと思っている。  
(米田佐代子)

〔事務局日誌〕

10月1日 ニュースNo50と共に「募金達成のためのお祝い」発送

10月13日 事務局会議

10月25日 第7回理事会

10月29日 真田町の山林の笹刈りと昼食会  
森のめぐみについて学習会

11月2日 企画・運営検討委員会

11月5日 ステンドグラス取り付け完了

11月10日 記録映画を上映する理事会会に出席

11月11日 世界平和とアピール七人委員会創立50周年記念集會に参加。同レセプションに米田会長出席

11月15日 ニュースNo51（臨時号）発行

11月18日 市川房枝基金助成金贈呈式に出席

11月24日 第2回企画・運営検討委員会

11月29日 記録映画上映会・於成瀬記念講堂

11月29日 第8回理事会

12月5日 第3回企画・運営検討委員会

12月20日 第9回理事会

◆会費・募金の送金は、郵便振替で  
00150-9-553046  
NPO・平塚らいてうの会へ